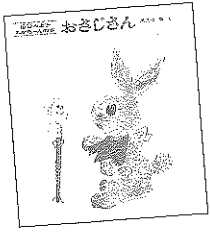
言葉は確かに息子の心に届き、ずっと残っていたとわかり、とても嬉しく感じました。

絵本を読んでもらって、心をどう動かすのか、どう表現するのかは子どもの自由です。親にできることは、目の前のわが子の心の存在とその感受性を誰よりも尊び、愛情深く大事に育(はぐく)むことだと思います。絵本はそんな親と子の間をつないでくれます。

読み聞かせがうまくいかないと悩んでいる人には、「絵本を読むときは子どもをよく見て待ってあげて。あなたの心に子どもへの愛情があればそれだけでいいです。だからもう十分できていますよ!」とお伝えしたいです。絵本は親子の味方です。作る人も売る人もたっぷりの愛情を込めています。読むとそこに、さらにあなたの愛情をのせることができるのです。最強の味方でしょう!



『おさじさん』
松谷みよ子 ぶん／東光寺 啓 え
(童心社)

タイトルカット／中村純子